

全国訪問教育研究会

第26回全国大会（滋賀）開催要項

2013年4月20日

■大会実行委員長あいさつ■

全国のみなさんに実行委員会を代表してご挨拶を申し上げます。

東日本大震災から2年が経ちました。まだまだ復興というには、遠く厳しい現実があります。あらためて、命を大切にすること、一人ひとりの安心・安全な暮らしと生き方をつくり出すことなどの人間の発達における権利保障の重要性が、被災地から全国に発信され続けています。

今回の大会のテーマは、「学校・地域に根ざした訪問教育を進めよう ～すべての子どもに発達保障を～」です。まさにこのテーマも、被災地からの発信を受けとめ、一人ひとりのその子らしい生き方と教育がなされていくその意味と価値を深め、それを支える網の目を細やかにしていくことの実践を希求し学び合い、交流を深めあいたいと考えて設定しました。

ここ滋賀県は発達保障の発祥の地です。テーマを深めるにふさわしい地だと思います。特に今年度は、日本の知的障害福祉の父といわれる糸賀一雄氏の生誕百周年という年であり、また重症心身障害児者施設びわこ学園も50周年という年で、発達保障の節目の年であるといえます。

この3日間の討議・交流を通して、マザーレイク母なる琵琶湖の湖面の輝きにまけないような子どもたちのいのちの輝きを、全国のあらゆるところでまぶしく輝かせていこうではありませんか。そして今大会をきっかけにして、個々の子どもたちへのとりくみにとどまらない「地域に根ざした訪問教育」という言葉どおりに、子どもたちが暮らす地域において、ゆたかな耕しがそれぞれすすめられていくことを期待しています。

子どもたちを真ん中にして、いのちを抱きしめ、元気の輪をたくさんたくさんつくりだしていきましょう。

全国訪問教育研究会第26回全国大会実行委員長
田村 和宏（びわこ学園障害者支援センター 所長）

■大会テーマ■

「学校・地域に根ざした訪問教育を進めよう ～すべての子どもに発達保障を～」

■開催日時■

2013年8月5日（月）～7日（水） 開場12時00分（開会13時00分）

■会場■

ピアザ淡海（おうみ） 滋賀県立県民交流センター
〒520-0801 滋賀県大津市におの浜1丁目1番20号 TEL 077-527-3315 FAX 077-527-3319.

■主催■

全国訪問教育研究会

■後援■（申請中を含む）

文部科学省・厚生労働省
全国特別支援教育推進連盟・全国特別支援学校肢体不自由教育校長会
全国特別支援学校知的障害教育校長会・全国特別支援学校病弱教育校長会
社会福祉法人全国重症心身障害児（者）を守る会・全国訪問教育親の会・全国病弱教育研究会
全国肢体不自由特別支援学校PTA連合会・認定NPO法人難病のこども支援全国ネットワーク
独立行政法人国立特別支援教育総合研究所
滋賀県教育委員会・滋賀県特別支援学校校長会

■大会日程■

1日目（8／5）		2日目（8／6）		3日目（8／7）	
		9:00 9:30	（分科会打ち合わせ） 分科会 ↓ ↓ ↓ ↓	9:20	ワークショップ ↓ （～11:00）
12:00	開場・受付開始	12:00	昼食	11:15	全体会 ・閉会行事
13:00	開会行事・基調報告	13:00	分科会・親の会懇談会 ↓ ↓ ↓ ↓	11:45	大会終了
13:50	調査研究報告				
14:15	開催地からの報告				
15:15	（休憩）				
15:30	大会記念講演 ↓	16:30	分科会終了 （休憩）		
17:00	記念講演終了	17:00	共同研究者・役員懇談		
17:15	全訪研総会	17:30	夕食交流会 （～19:30）		
18:00	分科会打ち合わせ （司会・共同研究者・レポーター） （～18:40）				

※期間中に、同会場内で、全国訪問教育親の会懇談会を行ないます。

■内容■

- （1）調査研究報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・（8/5 13:50～14:10）

「東日本大震災発生時の訪問学級児童生徒の被災状況と求められる支援」

- （2）開催地からの報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・（8/5 14:15～15:15）

『解明！滋賀の訪問教育 ～滋賀の訪問教育の底流～』

全国の関係者から「なぜ滋賀の訪問はそんなに少ないの？」という質問をよく受けます。滋賀の訪問教育は、他府県と比べて児童・生徒数が非常に少ないのが特徴です。その下でも、スクーリングも計画的に実施し、複数訪問のできる体制もつくっています。

そこで開催地からの報告では、この機会に各地から寄せられている疑問、質問に答えていこうと、滋賀の訪問教育の理念や歴史を辿りました。すると、そこから見えてきたのは、訪問教育の源流ともいえる、障害の重い子どもたちに対する発達保障の取り組みでした。今回の滋賀大会では、そうした学校に根ざした訪問教育について発信します。

(3) 大会記念講演・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ (8/5 15:30～17:00)

演 題：「重い障害を生きる困難とよろこび」

講 師： 高谷 清（びわこ学園医療福祉センター草津 医師）

【講演要旨】

重い心身の障害のある子は、身体的に不自由であるだけでなく、筋緊張や変形、関節の拘縮などによって、痛みや呼吸困難などが起こる。知的障害も重く、周囲のことの理解ができず、不安・恐怖にもなる。そして感覚器（視覚など）の障害をうけていることもあるが、外界や周囲の人と、なんらかの感覚・感触によって、関係をむすんでいる。その環境や人との関係が、その子の生きがいと結びついている。その子たちが生きていくことに、周囲の人との関係がどんなにか大事なことか。その子はそこに生きている「快」を求め、そこに「生きがい」が生まれてくる。

びわこ学園の子どもたちの日常を通して、テーマに沿って語りたいと思います。

【講師近著より】

【重い障害のある人の「自己意識」「人格」は・・・】

・・・「重症心身障害」の状態にある人は、「自己意識」や「理性」はないのだろうか・・・
きわめて重い知的障害（精神遅滞）の状態にある人は、自己を認識するという意味の「自己意識」はないであろう。それは乳児のばあい自己意識がないのと同じことである。

「自己」を「意識」という意味での「自己意識」はないが、「自己」は存在しているし、「意識」は存在している。その「自己」は、世話する母や介護する人を感じている。「感じている」という「意識」はなくても、「感じている」そのことがある。それは、身体そのものや心そのものが「感じている」ということである。よく馴染んでいる人とそうでない人に対する「感じ方」が異なる。

親しい人とは「安心」の「人間関係」があり、身体がリラックスしており、たぶん本人は気持ちよく感じている「快」の状態にある。その「快」の状態が存在できるということ、人間関係によって培われる「快」という状態にあることが、「人格」のもっとも基本にあるのではないだろうか。

『障害者問題研究』第40巻第4号（2013年2月）
「パーソン論」と障害児者にかかわる生命倫理 より～抜粋～

【講師紹介】

・1937年生まれ。1964年京都大学医学部卒業。京都大学付属病院、大津赤十字病院、吉祥院病院小児科勤務を経て、1977～97年びわこ学園勤務。うち、1984～97年びわこ学園園長。第20回（2011）ペスタロッピー教育賞受賞。
現在－びわこ学園医療福祉センター草津 医師（非常勤）。特定非営利活動法人きらら理事長。

- ・著書 一『重い障害を生きるということ』（岩波新書）
『異質の光－糸賀一雄の魂と思想』（大月書店）
『はだかのいのち－障害児のころ、人間のころ』（大月書店）
『ころを生きる－人間の心・発達・障害』（三学出版）
『こどもの心・おとなの眼－人間・障害・思想』（クリエイツかもがわ）
『蜂が戦い椰子も働く－南ベトナム解放 ベンチェの戦線』（文理閣）

(4) 全訪研総会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ (8/5 17:15～17:45)

*全訪研の総会を行います。（会員対象）

- ①活動報告(2012年8月～2013年7月の全訪研の活動内容)・②2012年度決算報告、会計監査
③2013年度予算・④活動方針・⑤規約・⑥役員候補・⑦事務局員委嘱・⑧連絡員委嘱

(5) 分科会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・(8/6 9:30～16:30 ※12:00～13:00は休憩)
※各分科会の内容に沿った入門講座的なものも含まれます。

分科会名	分科会のねらい（◆共同研究者）
①健康・身体づくり 1	○呼吸・摂食・排泄・運動動作などの指導について講義・実践を交えながら交流しましょう。 (※午前はレポート報告、午後は実技講座を行う予定です。) ＜障害が重く、日常的にさまざまな健康管理が必要な子どもに対する関わりについて＞ ◆花井 丈夫 (横浜療育医療センター 理学療法士)
②健康・身体づくり 2	＜姿勢づくりや子どもの活動を引き出す関わりについて＞ ◆竹脇 真悟 (埼玉県立宮代特別支援学校) ◆桑原 輝男 (東京都立府中特別支援学校)
③コミュニケーション 1	○重度・重複障害児のコミュニケーションを育てるための援助や配慮について、レポートを元に訪問での実践内容を交流しましょう。 小中学部の訪問生だけでなく、過年度生など青年期に入っている生徒についても、「コミュニケーション」という視点から幅広く討議をしましょう。 ＜AACを用いたコミュニケーションについて＞ 子どもたちの表出や表現を援助する手段としてAACが注目されています。そのような実践から学びましょう。 AAC:Augmentative and Alternative Communication (拡大・代替コミュニケーション) ◆荻田 知則 (愛媛大学教育学部)
④コミュニケーション 2	＜超重症児のコミュニケーションについて＞ 「反応がつかめない」「応答が乏しい」と言われがちな子どもたちですが、丁寧な関わりで意思表示や心の内面を捉えていく実践やその方法について話し合います。 ◆川住 隆一 (東北大学大学院)
⑤あそび・文化	○障害が重く、限られた環境条件の中での「あそび」は、どの教師も親も悩むところだと思います。 貴重な経験や工夫を交流しあって共有の財産としましょう。訪問での実践内容、また、青年期に入っている生徒への実践についても、「あそび」から発展した「文化」という視点から幅広く討議しましょう。 ☆参加される方は、教材を持ってきてください。分科会内で教材紹介を行います。 ◆木下 博美 (全訪研副会長・京都府立舞鶴支援学校)
⑥施設内の教育	○分教室や施設内学級、施設訪問等の教育内容について、具体的事例を通じて実践を深めていきましょう。 また、就学免除者等、不就学者の教育保障について関係者との連携を大切にしながら進み始めている実践を交流しましょう。 ◆河合 隆平 (金沢大学)
⑦病気療養児の教育	○“生きる力を育む”いのちの輝く教育を求めて、病気療養児の教育内容・方法や、院内学級・分教室・病院内訪問教育の実践を深めていきましょう。 ◆猪狩 恵美子 (福岡教育大学)
⑧地域での生活支援と教育 ー医療・教育・生活	○「地域の中で生きる」視点での生活支援、卒業後の進路を見通した指導、アフターケア、社会参加など、子どもたちの教育と生活を豊かにする地域支援のネットワークづくりが大切になっています。 医療的ケアを必要とする障害の重い子どもたちから内部疾患を持つ子どもたちの地域での生活など、様々な障害のある子どもたちの就学前から在学中、卒業後までの教育と生活を考えていきましょう。 ◆下川 和洋 (全訪研全国事務局・NPO法人地域ケアさぽーと研究所理事) ◆田村 和宏 (びわこ学園障害者支援センター) ◆池田 直子 (滋賀県立北大津養護学校)

○分科会レポートの申込みについて

分科会でのレポート発表を希望される方は次の①～⑤について、6月10日までにレポート担当宛に連絡をお願いします。
レポート担当者より、印刷部数やレポート送付先を連絡します。

- ①分科会名・氏名・学校名または所属先名・②自宅住所と電話番号(FAXの有無)・メールアドレス・③レポートタイトル
④使用する視聴覚機器(ビデオ、パソコン等)・⑤レポートの配布などに関して、個人情報保護の配慮が必要かどうか

＜レポート担当＞ 全国訪問教育研究会 全国事務局 栗山 弘子
FAX 03-5330-8857 h-kuri@peach.ocn.ne.jp

○レポート発表に関して

- ・大会実行委員会で用意できる視聴覚機器は、原則として、プロジェクターとスクリーンです。
パソコン、ビデオ、その他の機器を使用する場合は、各自でご用意ください。
- ・発表されたレポートは、全訪研研究集録「訪問教育研究第26集」に掲載させていただく場合があります。原稿依頼を受けた際はよろしくお願いします。

○大会参加者へのレポートの配布について

- ・各レポート配布はレポーターの判断を尊重します。
 - 個人情報保護の観点から、原則として、レポート配布は発表される分科会内のみとなります。
 - ・各分科会の内容は、12月末発行の「訪問教育研究第26集」（1000円＋送料）に掲載されます。
- 大会会場でも予約を承りますので、他の分科会のレポートを知りたい方はご利用ください。

(6) 全国訪問教育親の会懇談会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ (8/6 13:00～16:30)

大会2日目の午後に、全国訪問教育親の会懇談会を開きます。思っていること、悩んでいること、いろいろ話しに来てください。訪問生（卒業生も含めて）の保護者のみなさんの参加をお待ちしています。皆さんのお話に共感し、アドバイスをしてくださる方がいらっしやると思います。

(7) 夕食交流会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ (8/6 17:30～19:30)

大会2日目の夕食は、大会会場、ピアザ淡海6階ホールで行いますので、分科会終了後一息ついてからご参加いただけます。今年は、滋賀の名産と地酒を堪能していただきながら、全国各地からご参加の皆さんが気軽に話し合い、交流できる場になればと考えます。お一人での参加も大歓迎。つながりを実感できる交流会をお楽しみに！

(8) ワークショップ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ (8/7 9:20～11:00)

※A、B、C は訪問教育の基礎講座的な内容です。

	ワークショップ名	講 師	内 容
A	訪問教育1年生のあなたに	◆岡田敏男 (全訪研副会長・ 千葉県立松戸南高等学校) ◆猪狩恵美子 (全訪研前会長・福岡教育大学)	訪問教育担当になって、様々な悩みを抱えていると思います。参加者と一緒にその悩みや疑問を共有しながら、新学期からのエネルギーにかえてみませんか！経験年数問わず、お待ちしております。
B	授業づくり	◆木下博美 (全訪研副会長・ 京都府立舞鶴支援学校)	表出の少ない重度の訪問の子どもたち。どうすれば、その心に触れることができるのか？どんな授業ができるのか？悩みながらの実践をお伝えします。
C	重度児の発達とコミュニケーション	◆高木 尚 (全訪研会長・ 東京都立村山特別支援学校)	重症児の意思表示をどう捉えていくのか、関係の中でどんな力が育っていくのか、一緒に考えてみませんか。
D	科学実験	◆黄之瀬健司 (滋賀県立石部高校)	様々な、科学実験を通じて子どもたちの「はっとした顔」「ふしぎそーな顔」ができるような科学実験を体験してみませんか。講師は、理科教育サークル「鮎（えり）の会」で活躍している先生です。
E	手作り楽器	◆河合正雄 (音楽劇団「てんてこ」代表)	滋賀県を中心に講演おこなっている音楽劇団「てんてこ」の手作り楽器を学びます。生活で使う空き缶、ヨーグルト容器、ストロー等身近な材料を使って楽器を作ります。子ども達と一緒に楽しめるような楽器をつくりませんか。※当日は、劇団の公演はありません。楽器作りのワークショップのみになります。

(9) 全体会（閉会行事）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ (8/7 11:15～11:45)

大会最終日の全体会です。以下の内容を予定しています。

- ①大会宣言 ②実行委員長あいさつ ③次回開催地への引き継ぎ ④閉会あいさつ ♪歌「小さいのち」

■わくわくクラブ（保育）と緊急時の体制について■

実行委員会では、子どもさんや障害があるお子さん連れでも、参加していただきやすいように保育を設けます。

●時間帯 次の4つの時間帯でわくわくクラブを実施します。

- (a) 8月5日(月) 13:00～17:45
- (b) 8月6日(火) 9:00～12:00
- (c) 8月6日(火) 13:00～17:00
- (d) 8月7日(水) 9:00～12:00

●緊急時の体制と医療機関

(緊急時には、会場近くの病院での対応をお願いしています。)

大津赤十字病院 滋賀県大津市長等一丁目1-35 TEL 077-552-4131

●わくわくクラブ（保育）申込み

- ・大会参加申込書の「わくわくクラブ（保育）の希望」の欄にご記入ください。
- ・申込み受け付け後、お子さんの生活ケアや医療的ケアの様子を知るために、担当者から連絡させていただきますので、よろしくお願いします。
- ・クラブ参加費用、おやつ代や見学代等の費用をいただきます。
- ・大会当日に、保険証またはそのコピーをご持参ください。

■参加費・宿泊費など■

(1) 大会参加費

・一般	(3日参加：6000円	2日参加：5000円	1日参加：3000円)
・全訪研会員	(3日参加：4000円	2日参加：3000円	1日参加：2000円)
・保護者・学生	(3日参加：2000円	2日参加：1500円	1日参加：1000円)

※参加費に加えて、お一人につき、**500円の手数料**をいただきます。

(事前申込み、当日申込みのどちらも500円の手数料がかかります。)

※会員と一般は参加費用が異なりますので、ご注意ください。参加申込みと同時に会員申込みをすることも可能です。

参加申込書の「入会を申し込む」の欄に○をつけてください。(会員参加費での参加になります。)

※会員申込みには**年会費4000円**が別途必要です。会費は**大会当日に全訪研受付でお支払いください**。

(大会参加費と一緒に振り込まないよう、ご注意ください。)

(2) 食事関係代金

昼食弁当代 (2日目 8/6)	1000円
夕食交流会代 (2日目 8/6)	5500円

(3) 宿泊費

周辺も併せて、現在、下記のホテルをご用意できます。

① 東横イン京都琵琶湖大津	シングルルーム	6500円	ツインルーム	4500円
② ホテルテトラ大津・京都	シングルルーム	8500円		
③ ホテルアルファワン大津	シングルルーム	6800円		
④ ホテルピアザびわ湖	シングルルーム	8800円	ツインルーム	8800円

* 1泊朝食付き、消費税込の料金です。

※バリアフリールームは①④のホテルに対応があります。

※④のホテルは部屋数が少ないので、宿泊を希望する方は申し込む前にご連絡ください。

■申込み方法■

- (1) 大会参加者1人につき1枚「**参加申込書**」にご記入の上、FAXまたは郵送で、下記の送付先へお送りください。
また、全訪研ホームページからもメールで申込みができます。

☆全訪研ホームページ http://www.geocities.jp/chou_masaharu/

※参加申込者が複数の場合には、恐れ入りますが「参加申込書」用紙をコピーしてお使いください。

※手話通訳が必要な方は、参加申込書にその旨をご記入ください。

※宿泊がご不要の場合でも、参加申込みをしてください。

【参加申込書の送付先・問い合わせ先】

〒520-0056 大津市末広町1-1 日本生命大津ビル2階

TEL077-510-0100

Fax077-510-0030

名鉄観光サービス(株) 大津支店

全国訪問教育研究会 第26回全国大会係

担当：水戸 靖智

yasutomo.mito@mwt.co.jp

大会参加申込み締切 6月28日（金）

- (2) 申込受付後、予約確認書・請求書をお送りします。
- (3) 予約確認書・請求書の内容をご確認の上、参加費・宿泊費の合計金額を下記指定口座までお振込みください。

■申込み後の取り消しについて■

ご宿泊の取り消しにつきましては、1件1名につき下記の取り消し料金を申し受けます。

ご利用の	14日前～4日前	3日前～2日前	前日	当日12時まで	無連絡不泊
当該料金の	20%	30%	50%	80%	100%

※日数は宿泊初日から起算させていただきます。

昼食のキャンセルは、3日前50%、2日前80%、前日・当日100%となります。

※「大会参加費」については返金できません。代わりに、大会記録が掲載された「**訪問教育研究 第26集**」を、12月末に送付致しますので、ご了承下さい。

■資料の請求について■

大会に参加できないが大会記録がほしいという場合は、12月末に発行される「訪問教育研究 第26集」を送付致します。大会の記念講演や分科会まとめ、その他、訪問教育に関する資料が掲載されています。

下記の郵便口座に資料代（送料込み）として、**1080円**の入金をお願いします。

振替用紙の「通信欄」に「資料請求代」と明記して下さい。資料請求の受付は、**6月28日まで**です。

【資料請求の振込先】 郵便振替口座番号「00130-2-95934 全国訪問教育研究会」

(※全訪研会員には、12月に機関紙「**こんにちは**」と一緒に「**訪問教育研究 第26集**」を送付しますので、
資料請求のみの申込みはしないでください。)